



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)  
あっさり黙示録 #76  
神殿がない神の都 新しいエルサレム  
黙示録 21 章

2024/04/20

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録の第 76 回目！  
今、新天新地の、特に新しい首都、新しいエルサレムの内部構造や外形的なことについてお話していますが、今日は、新しいエルサレムの中に無いものについてお話しします。

### 黙示録 21 章 22～23 節

**私は、この都の中に神殿を見なかった。全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。**

ここから 3 つのポイントで、新しいエルサレムの特徴から学びましょう。

#### ポイント 1. 神殿が無い

千年王国ではエルサレムに巨大な神殿がありました。  
それは第一神殿・第二神殿とは比べ物にならない大きな神殿で、「仮庵の祭りの時には、世界中の民族の代表者がこの神殿にやって来る」と書いてあります。

ところが、新天新地の首都、新しいエルサレムには神殿が無い。  
なぜなら、全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。  
どう解釈したらいいんでしょうか。文字どおり解釈したらいいんですね。

人々は神に会うためにやって来ますが、直に神と交わることはできません。  
人々と神の間に祭司という仲介者がいて、人々の代わりに祈りや願いを携えて神のもとに行き、それを献げるんです。神殿が無いということは祭司もいない。  
神と子羊が神殿なので、すべての人は神と直接会うことができる。  
すべての人が祭司である世界。神とこの上もなく親しく交わることができる都です。

皆さんは、寂しくなった時にふと思い出す人っていますか。こんな時にあの人がいてくれたらなあとか、無性にあの人に会いたいなあとかいう人、いますか。  
クリスチャン詩人の八木重吉（やぎ じゅうきち/1898-1927）は、こう言っています。  
「神様、あなたに会いたくなりました。」何かあったんでしょうね。

私も人生の中で、毎日の中で、ちょっとガッカリしたり、疲れ切ったりした時、「神に会いたいなあ」と思うことがありますよ。  
「会いたいなあ」という願望だけじゃなくて、直に目視で見える形で神と子羊の前に行く世界、それが新天新地の首都、新しいエルサレムの様子なんですね。

## ポイント 2. 太陽と月が無い

太陽も月も必要としないとあるように無いんです。神と子羊が光を放っていて、しかも、この都は全部宝石で出来ていましたでしょ。光を遮るものが無いんです。なので、神の栄光が充満していて、太陽も月も要らないんですね。

実は聖書の中に、太陽も月もなくなるといことについて預言している、太陽も月も無い世界を想定して語っている箇所があるんです。

### エレミヤ書 31 章 35~36 節

**主はこう言われる。太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名が万軍の主である方が。「もしも、これらの掟がわたしの前から去ることがあるなら、一主のことはイスラエルの子孫は絶えて、わたしの前にいつまでも一つの民であることはできない。」**

太陽は昼間の光、月と星は夜の光となる。これは神が定めた原則、宇宙の法則です。神のこの法則を、どんな人間が変更することができるだろう。

太陽が出て来ないようにしたり、回転運動・公転運動をストップできる人間がいないように、ユダヤ民族を滅ぼすことができる人間はだれもいない。

人が太陽や月をストップできるなら、その人物がイスラエルの子孫を全滅させる。しかし、そんなことができる人間はいないでしょ。だから、ユダヤ民族を全滅させる人間はだれもいないんだ。

でも同時に、もしそれができるなら、これらの掟がわたしの前から去ることがあるなら、イスラエルの子孫は絶える。

太陽も月も星も無くなる時、「ユダヤ人がユダヤ人である」ということで特別な特権を受ける時代は終わるんです。

千年王国ではイスラエルが世界の中心で、ユダヤ人は世界の人々の教師となります。世界の人々は、ユダヤ人から教えを学ぶ生徒のような立場なんですね。しかし、それは千年王国までです。新天新地には太陽も月も無い。

エレミヤ書 31 章 35~36 節が実現します。

新天新地では、ユダヤ人だったという記憶は残るでしょう。教会のメンバーだったという記憶は残るでしょう。異邦人として救われたという記憶は残るでしょう。

しかし、完全平等の世界なんです。

千年王国では、地上に生きていた時の信仰のあり方によって報いの違いはあります。新天新地では、ただ神ご自身だけが栄光を受けていて、すべてのものが平等に神の前で礼拝している姿が描かれているように思います。

## ポイント 3. 都には光が満ちている

### 黙示録 21 章

**24 諸国の民は都の光によって歩み、地の王たちは自分たちの栄光を都に携えて来る。**

都には光が満ち満ちているんですね。これをどう考えたらいいのか。  
私は、癒される都のことを語っているようにも思います。  
皆さんは、冬季鬱病のことをご存知ですか。Winter Blueとも言われていて、冬に日照時間が少なくなると発症することが多い鬱病です。  
セロトニンの分泌量が減って冬季鬱病になると、睡眠時間が過剰に長くなったり、過剰に食べたり、妙にイライラしたり、倦怠感に襲われたり。  
普段鬱病の方が、冬にはもっと重くなることもあるんですね。  
これは春になって日照時間が長くなると、自然に解消するんです。  
この病気は、特に緯度が高い北欧に住んでいる方が多いと言われているんですね。

治療は光ボックスの中に入ります。2500～10000ルクスの非常にまばゆい光の中に閉じ込められるというか、光を全身で受けることでこの病気が軽快する、癒されるんですね。つまり、光には癒す力があるんです。

新天新地だから病気も何も無いんですが、神は私たちが癒す方、満たす方、より良くする方、完成しているものにいよいよ磨きをかけてくださる方。  
この方が私たちの創り主であり、救い主なんですね。  
そして、ここがクリスチャンが最後に行くところなんです。

昔、ある方が言いました。「クリスチャンは、どうしても請求書の祈りが多い。神に請求するお願いの祈り。『神様、アレしてください。コレしてください。ああもしてください。こうもしてください。これ、まだしてもらってませんよ』って、要求ばかりやってる請求書の祈り。神は『それを祈れ』と言われているから祈るのはいいが、同時に、領収書の祈りがあってもいいんじゃないか。

神様は『最後にこうしますよ』と言われている。私たちはそれをまだ受け取ってないけど、神が約束した以上、この未来は絶対に動かない。必ずこうなることが定まっているんだから、もう安心していい。『私はこういうことを受け取ることになっているんですね』と、今地上にいる時から領収書の祈りを献げることが、満ち足りた信仰生活の秘訣になる。」なるほどなと思いました。

いかがですか。神様はあなたのために、キリストによって素晴らしいものを準備しておられます。クリスチャンは既にそれをもらっているのですから、領収書の祈りをいかがでしょう。まだ受け取っていない方々は、ぜひ請求書の祈りを献げてください。

チャンネル登録といいねボタンもお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。お元気でいらしてください。さよなら！

—\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017